

**製品名:** リン酸化 ERK1/2 (Thr202/Tyr204) / (Thr185/Tyr187) ウサギモノクローナル抗体  
**カタログ番号:** AMRe84925

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 44,42 kDa; Observed MW: 44,42 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	Phospho-ERK1/2 (Thr202/Tyr204)/(Thr185/Tyr187)
別名	MAPK1/MAPK3
遺伝子 ID	5595/5594
SwissProt ID	P27361/P28482
免疫原	ヒト Erk1 の Thr202/Tyr204 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

## 背景

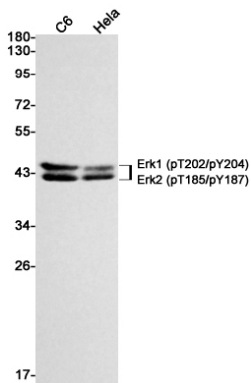
セリン/スレオニンキナーゼは、MAP キナーゼシグナル伝達経路の必須構成要素として機能します。MAPK1/ERK2 と MAPK3/ERK1

は、MAPK/ERK カスケードにおいて重要な役割を果たす 2 つの MAPK です。これらは、活性化 KIT および KITLG/SCF によって開始されるシグナル伝達カスケードにも関与します。細胞の状況に応じて、MAPK/ERK カスケードは転写、翻訳、細胞骨格の再編成を制御することにより、細胞の成長、接着、生存、分化など、多様な生物学的機能を媒介します。

## 研究分野

-

## 画像データ



Phospho-ERK1/2 (Thr202/Tyr204)/(Thr185/Tyr187) 抗体を使用した、C6、Hela 溶解物中の Erk1 (pT202/pY204)/Erk2 (pT185/pY187) のウエスタンブロット分析。